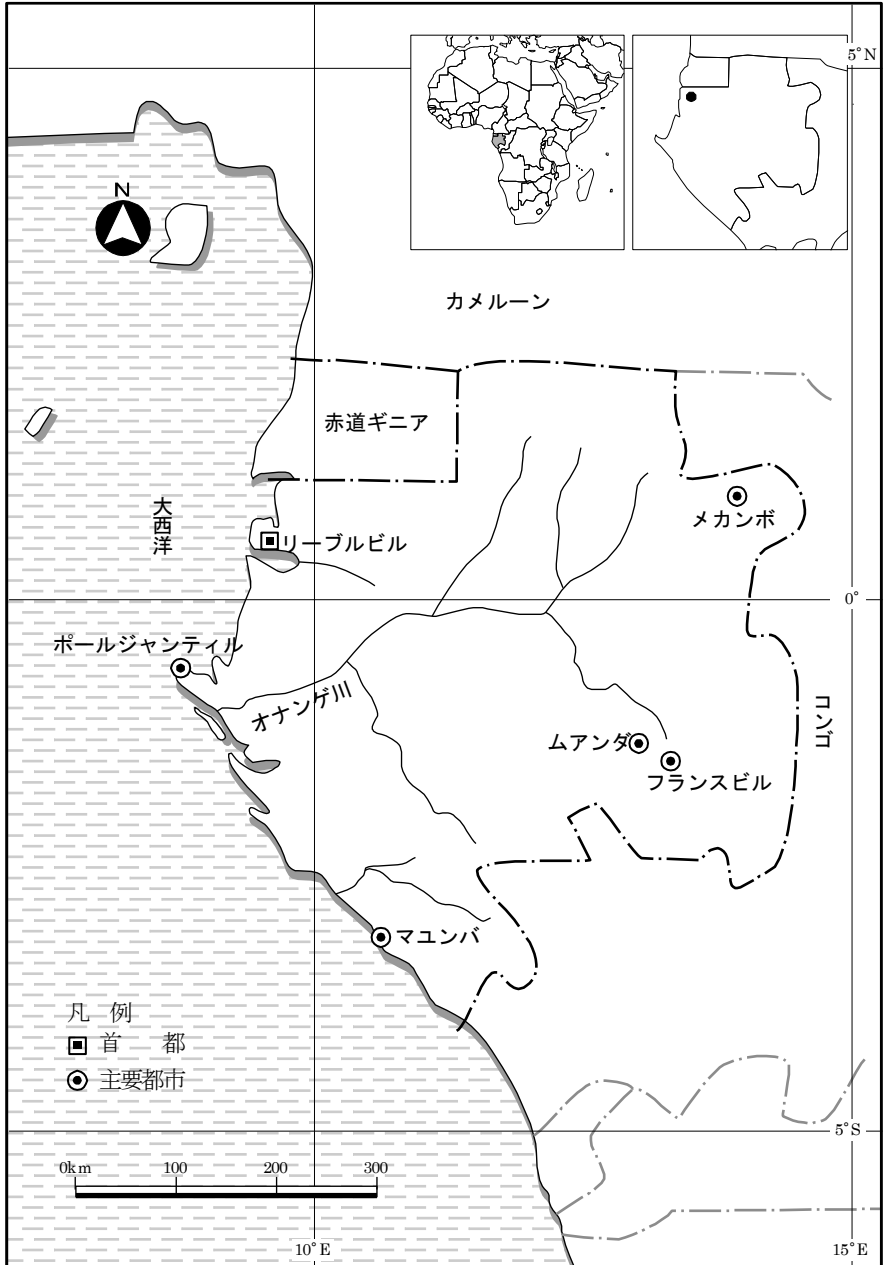


ガボン共和国



(一般指標)

国名 (英名)	ガボン共和国 (GAB : Gabonese Republic)		
国土面積 万 ha	2,677 (日本の71%)		
人口 万人	156 人口密度 5.8人/km ² (2012年)		
首都名(英名)	リーブルビル (Libreville) 標高35m		
首都人口 万人	73.2 (2009年)		
主要言語	フランス語(公用語)、ミエネ語、バトゥケ語など		
宗教	カトリック54.8%、プロテスタント17.5%、イスラム1%		
国連加盟年月	1960年9月 (1960年8月独立)		
通貨単位	CFAフラン 1米ドル=493.058 (2013年7月)		
国民総所得 : GNI 億米 ^{ドル}	117 (2010年)		
一人当たりGNI 米 ^{ドル}	7,740 (2010年)		
主要産業	石油、木材、マンガン		
日本から輸出 億円	69 (2011年) (建築用機械、乗用車、トラック)		
日本の輸入 億円	525 (2011年) (原油、マンガン、木材)		
土地利用 万ha	耕地	48	(1.8%) (2009年現在)
	森林	2,200	(85.4%) (2009年現在)
	牧場・牧草地	467	(18.1%) (2009年現在)
度量衡	メートル法		
祝祭日	1月1日元日、5月1日メーデー、8月15日聖母被昇天、17日独立記念日、11月1日万聖節、12月25日クリスマス 移動祝日 : 復活祭、断食明けの祭、犠牲祭		
気候	赤道直下に位置し、ほぼ全土が熱帯気候Af・Aw。赤道に近い北部ほど多雨である。南部の沿岸地域は雨量が少なく乾燥気候BS。南西季節風が吹く6~8月は乾季。首都リーブルビル付近(標高12m、年平均気温25.7℃、年降水量2,783mm、7月降水量2.7mm、10月降水量605mm)。		

(森林指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	22,000
森林率	%	85.0
森林変動率 (2005-2010)	%	0.0

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	4,895
ha 当たり森林蓄積	m ³	223

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	30
森林面積に対する割合	%	-

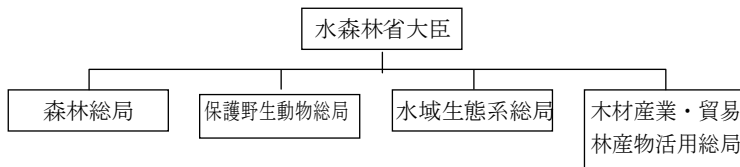
(森林所有者)

公的機関	%	100.0
民間	%	0.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	2,710
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	0

(森林・林業行政組織)



(森林・林業政策)

(1) 大統領のビジョン

ガボンの現大統領アリ・ボンゴ・オンディンバ氏は2009年に大統領に就任後、「ガボンを新興国に育てる」とのビジョンをかかげ“工業のガボン”、“緑のガボン”、“サービスのガボン”の3本の軸を据えた。このビジョンは基本的には、上記3つの分野において、内外の民間投資を積極的に呼び込んで、ガボンの経済・社会開発を促進しようとするものである。

そのうち、森林政策に関連する“緑のガボン”では、大きく以下の目標を掲げている。

- ① 森林の持続的管理
- ② 森林由来産物の活用、特にバイオマス及びNWFP
- ③ ガボンの野生動植物の多様性によるエコツーリズムの促進
- ④ 800kmに及ぶ海岸線及び淡水資源の活用
- ⑤ 炭素による資金調達

上記のビジョンについては関係の各省庁が2011-2016年のアクションプランを作成することとされている。

(2) “緑のガボン”以前から現在まで継続している政策

上記の大統領ビジョンの前に設定された森林に係る政策文書としては、1999年にフランスの協力を得て策定された「国家森林アクションプラン (PLAN D’ACTION FORESTIER NATIONAL)」と、2004年に発表された「森林、漁業・養殖、保護区域、環境及び人材育成分野に係る政策書簡 (LETTRE DE POLITIQUE DES SECTEURS FORETS, PECHEES ET AQUACULTURE, AIRES PROTEGEES,

ENVIRONMENT ET DE LA FORMATION)」がある。

国家森林アクションプランでは、以下の6つの主要軸として設定している。

- ① 森林生態系及び野生動植物資源の長期的保護
- ② 国が管轄する恒久林地及び村落が管轄する林地の設定
- ③ 資源開発へのアクセスに対する必要条件としての持続的森林管理計画の策定と実施
- ④ 整備計画策定済み森林の認証
- ⑤ 森林管理及び林産物の地元での加工に対する地域住民の参加促進
- ⑥ 森林部門の細分化及び収穫樹種の多様化

国家森林アクションプランのこうした考え方を基礎に、森林法の改正が図られ、現行の森林法が2001年12月31日に制定された。同法が現在のガボンにおける森林政策の基礎となっている。一方、2004年に発表された政策書簡の森林木材に係る章では、「2002年の石油部門を除いた第一次産業の国内総生産への寄与率4.2%を10年後に10%に上昇させることを目標とする」としたうえで、森林分野では、以下の方針を設定している。

- ① 森林生産の増加
- ② 林産物の付加価値を高めるための国内での加工促進
- ③ 野生動物資源及び保護地域の拡充への貢献
- ④ 森林分野の活動へのガボン人のより多くの参加
- ⑤ 生態的持続的管理を尊重しつつ、国及び地方自治体の租税収入の安定化
- ⑥ 村落共同体及び住民自身による、そのための村落林の直接管理

上記の2つの政策文書に共通しているのは、木材生産を産業として確立し、原木輸出からガボン国内での木材加工へ転換を図って付加価値を高めて木材輸出をすることで、林業の国内総生産への寄与率を高めようとしていることである。この方針を受けて、ガボンでは、3カ月の猶予期間を設けた上で、2010年1月1日に原木丸太の輸出を全面的に禁止した。このように木材生産を発展させつつ、森林を持続的に管理するため、単に生産林だけでなく、ガボン全土の森林現況を把握し、それを持続的に管理することが現時点におけるガボンにおける最重要課題となっている。

(3) 森林法

森林法では、林地を大きく国が管轄する“恒久国有林地”と村落が管轄する“村落林地”に分類したうえで、細かく区分している。

表 3-3 ガボン森林法による林地区分

大区分	中区分	小区分
恒久国有林地	保存指定国有林	保全林
		レクリエーション林
		植物園及び動物園
		樹木園
		保護地域
		教育・研究林
		植林地
	とくに劣化しやすい生産林、または村落管轄林地隣接の生産林	
	登録生産国有林	生産割当林及び生産用森林保護森林
村落林地		村落共同体に利用が限定される土地及び森林

森林資源の持続的管理に関しては、森林法第 20 条で、「コンセッションである、なしにかかわらずすべての国有林地では整備計画を作成しなければならない」としており、整備計画作成の義務は必ずしも生産林だけに限られたものではなく、それぞれの区分の目的に対応した整備計画の策定が求められている。また、同法第 53 条では、「すべての整備計画作背には必ずインベントリーを行う必要がある」と定められており、いかなる目的にせよ国有林を利用するためには、整備計画の策定が必要で、さらにそのためのインベントリーに関して同法第 19 条では、「すべての森林整備事業及び森林・野生動物インベントリーは水森林当局が定める技術規格に則って行うべきである」と規定されており、このための「国家技術ガイド (Guide Technique National)」も作成されている。

(森林の現況)

FRA2010によれば、2010年現在のガボンの森林面積は2,200万haであり、国土面積に対する割合は85%である。原生林の面積は1,433万haであり、森林面積の65%が原生林である。しかし、1990年に比べると660万ha減少している。1990年から2010年までの森林面積に変動はない。

ガボンの森林は、大別すると熱帯低地雨林と熱帯半落葉雨林に分けられる。前者がガボンの森林の大部分を占め、後者は南部のコンゴとの国境付近の降雨量のやや少ない地域に分布するのみである。ガボンの森林に分布する有用樹種は次のとおりである。

- ・ *Aucoumea klaineana* (オクメ)カンラン科
- ・ *Lophira alata* (アゾベ)オクナ科
- ・ *Entandrophragma cylindricum* (サペリ)センダン科
- ・ *Khaya ivorensis* (アカジュ)センダン科
- ・ *Guarea cedrata* (ボセ)センダン科
- ・ *Lovoa trichilioides* (ディベトウ)センダン科
- ・ *Entandrophragma candollei* (コシボ)センダン科
- ・ *E. utile* (シボ)センダン科
- ・ *Chlorohora excelsa* (イロコ)クワ科
- ・ *Tarrietia utilis* (ニャンゴン)アオギリ科
- ・ *Canarium schweinfurthii* (アイエレ)カンラン科
- ・ *Hallea ciliata* (バヤ)アカネ科
- ・ *Ceiba pentandra* (フロマジエ)バンヤ科
- ・ *Daniellia* spp. (ファロ)ジャケツイバラ科
- ・ *Pycnanthus angolensis* (イロンバ)ニクヅク科
- ・ *Erythrophleum* spp. (タリ)ジャケツイバラ科
- ・ *Terminalia superba* (リンバ)シクンシ科
- ・ *Diospyros assimilis* (エボニ)カキノキ科
- ・ *Staudtia stipitata* (ニオベ)バンレイシ科
- ・ *Distemonanthus benthamianus* (モバンギ)マメ科
- ・ *Nauclea diderrichii* (ビランガ)アカネ科
- ・ *Dacryodes buettneri* (オジゴ)カンラン科
- ・ *Mammea africana* (オボト)オトギリソウ科
- ・ *Tieghemella africana* (ドウカ)アカテツ科
- ・ *Microberlinia brazzavillensis* (ゼブラウッド)マメ科

注：() は商品名である。

ガボンの植生タイプは国土の8割以上が低地密林である。人口密度の低さ、特に農村部での人口の少なさとあいまってガボンはアフリカでも最も住民一人当たりの森林

面積が高い国となっている。

2008年におけるガボンの自然保護区は計 290 万 ha 以上で、国土面積の 13.2%以上となっている。IUCN カテゴリーでは I（厳正自然保護区）および II（国立公園）に該当する。国立公園は計 13 ヲ所、219 万 ha を占めている。その他の区分として、生物圏保護区、動物保護区、動植物園、サンクチュアリー、狩猟区域が含まれる。大規模な狩猟行為は禁止されているが、2007 年には小規模狩猟及び銃器携行許可が 1,684 件発効されている。

（人工造林）

ガボンの森林面積約 2,200 万ヘクタールに対し、人工林面積がわずか 30 千 ha であることから分かるとおり、同国における人工造林は本格的な造林は始まったばかりである。現在行われている植林は 2 つの方法で実施されている。すなわち、自然の再生力を利用した方法と人為的な植林方法である。

造林推進政策は 1930 年頃から開始されたが、オクメ (*Aucoumea klaineana*) の造林は急速に進んだ。しかし、大規模な造林は 1945 年から開始された。1985 年から 1993 年の間、*Aucoumea klaineana*、早生樹種である *Eucalyptus spp.* 及び *Pinus spp.* の他の樹種が産業目的で造林された。現在の造林技術上の問題点は特に間伐であり、また、造林資金の不足が造林の継続上の大きな障害となっている。

皆伐、10cm 以下の低木の全てを刈り払い、その後、群状植付け、筋植え、あるいは全面植えつけによる造林が行われている。最少植付け本数は ha 当たり 625 本である。資源再生の観点から、再造林プログラム (36,000ha、2000 年) においては、これらの方法は下降傾向にあり、より価値の高い樹種の更新が天然林の経営において促進され、多くの投資がされるようになってきている。

（天然林施業）

現在約 15 樹種の丸太が天然林から収穫されているが、この樹種数は増加し、2010 年には 30 種に、更に 2025 年までには 60 種になると見込まれている。ガボンにおける主要な収穫樹種は、*Pterocarpus soyauxii* (Red wood)、*Diospyros spp.* (エボニ) 及び *Aucoumea klaineana* (オクメ) である。オクメは産業用材として最も重要な樹種であり、天然林、人工林での更新について非常に多くの研究が実施されている。

挿し木苗（及び単木母樹システムの手法による天然林改良（天然更新）が試験された。天然林が商業伐採により収穫された後、二次的優占樹種の追加的択伐が行われる。これは、林分の長期間の成長の促進と優占商業樹種の天然更新を促進するためである。すなわち、森林構成樹種の改良のためのものである。「オクメ法」は天然更新法に基づく技術であり、この技術は成熟したオクメの森林調査と造林技術からなり立っている。成熟したオクメの技術的伐採の DBH は 70cm であり、間伐を繰り返し、伐期の ha 当たりオクメの立木密度は 80 本とされている。

ガボンにおける天然林の伐採には、森林法で次の伐採最低直径を設けている。また、最低輪伐期は 20 年を守ることでとされている。

樹種別伐採最低直径

単位：cm

最低直径	樹種名
40	<i>Mitragyna ciliata</i> (バイヤ) <i>Diospyros crassifolia</i> (エボニ) <i>Staudtia stipitata</i> (ニオベ)
50	<i>Distemonanthus benthamianus</i> (モバンギ) <i>Nauclea diderrichii</i> (ピランガ)
60	<i>Dacryodes buettneri</i> (オジゴ) <i>Daniellia</i> spp. (ファロ) <i>Erythrophleum ivorensis</i> (タリ) <i>Tarrietia utilis</i> (ニャンゴン) <i>Mammea africana</i> (オボト)
70	<i>Lophira alata</i> (アゾベ) <i>Chlorohora excelsa</i> (イロコ) <i>Aucoumea klaineana</i> (オクメ)
80	<i>Khaya ivorensis</i> (アカジュ) <i>Lovoa trichilioides</i> (ディベトウ) <i>Tieghemella africana</i> (ドウカ) <i>Microberlinia brazzavillensis</i> (ゼブラウッド)

出典：ガボン森林法より作成

(林産業)

ガボンの主要材は Okoumé、Ozouga(Ozigo)、Angoa、Tali などである。1900 年以前から Okoumé を中心とした森林開発がなされていた。2007 年における木材（丸太）

生産量は、Okoumé/Ozigo が 210 万 m³、その他樹種材が 120 万 m³、合わせて 330 万 m³であった。このうち、木材加工工場に搬入された木材は 113 万 m³ (全体の 34%) であった。2007 年の輸出記録を見ると、丸太材が 194 万 m³、製材が 25 万 m³、ベニア材が 16 万 m³となっている。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	合計
1985	419	1,382	—	0	1,382	1,801
1990	452	1,633	—	0	1,633	2,085
1995	497	2,298	—	0	2,298	2,795
2000	515	2,584	—	0	2,584	3,099
2006	1,070	3,500	—	0	3,500	4,570
2010	1,070	3,400	—	0	3,400	4,470

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量 (2010)

単位：数量万 m³、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	数 量	数 量	金 額
丸 太	—	—	71.0	38,474.0
製 材	—	—	8.5	6,709.2
合 板	0.2	129.8	3.5	4,155.8

出典：JICA, 2012, 「ガボン国 REDD 活動に資するための森林再生インベントリーシステム開発計画調査報告書」